

令和 7 年 2 月 28 日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報 告）

ア 令和 7 年度浜松市立小学校及び中学校の学級編制について

※教職員課採用管理担当課長から資料に基づき説明

（下鶴委員）はままつ式 30 人学級編制について、任意規定になっているが、実際にはどの程度の学校数で採用されているのか。

（教職員課採用管理担当課長）令和 6 年度は採用可能な学校はあったが、実績はない。代わりに再任用職員や非常勤講師を追加配置して、手厚い体制がとれるよう配慮した。

（田中委員）自閉症・情緒学級の 8 人学級解消措置についてもう一度説明いただきたい。

（教職員課採用管理担当課長）自閉症・情緒学級人数が 8 人である場合に、国の基準によれば 1 クラスとなる場合であっても、これを 2 クラス編制にすることを可能とする措置である。

（教育長）国の基準によれば、2 クラス編制にするには 9 人必要であるが、浜松市では 8 人で 2 クラス編制にすることができる。

（田中委員）それはクラス数に合わせて教員も配置できるということか。

（教育長）そのとおりである。

（下鶴委員）この措置は、すべての発達支援学級ではなく、自閉症・情緒学級のみが対象か。

（教育長）知的学級は措置の対象でない。自閉症・情緒学級については、8 人を基準としても 1 クラス当たりの人数が多いという声がある。

イ ※非公開

ウ 「令和 6 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」浜松市の結果（概要）について

※教育センター所長から資料に基づき説明

（下鶴委員）令和 6 年度の 5 年生ということは、令和 2 年度の入学した児童であると思う。コロナ禍で本当に色々な制限があり、運動制限をはじめ、生活様式も大きく変わった時期

だったという観点で見させていただいた。平均を下回る種目も多いとのことだが、過去最低という種目はあったか。

（教育センター所長）具体的に過去最低となったものを説明する。小学校5年男子は今年度、握力が過去最低であった。合わせて反復横とび、20メートルシャトルラン、立ち幅とび、この4種目がこれまでの過去最低となっている。

小学校5年女子は、握力、反復横とび、20メートルシャトルラン、50メートル走、立ち幅とびと、5種目に渡って過去最低の数字となっている。中学校2年男子は上体起こし、持久走、この2種目が過去最低となっている。中学校2年女子は、握力、上体起こし、持久走、50メートル走、立ち幅とび、ハンドボール投げ、の6種目が過去最低となっている。年々記録は低下してきている。

（下鶴委員）この中学校2年生の記録の子供たちの小学校5年生のときの記録と比べた伸び率というのは分析できているか。それは平均しているか。

（教育センター所長）今年度の中学校2年生男子が小学校5年生のときは、5種目が全国を下回っていたところ、今年度の中学校2年生は、全国を下回っているのが2種目で、改善傾向にある。同じく女子についても、小学校5年生のときは4種目が全国を下回っているところ、現在は1種目のみのため、小学校から中学校に上がるにつれて体力が向上しているということが結果として分かっている。

（神谷委員）中学生について、本市は部活加入率が高いため、運動能力も伸びると思うが、小学生については、改善すると言っても、体育の授業以外にスポーツする機会や時間が短く、最近の子供たちにとってスポーツは習うものになっていて体力を伸ばす要素がほとんどないと思う。そうした中、部活の加入率を期待するしかないのか、小学校の学校教育の中で何か改善できるような施策はあるのか。

（教育センター所長）学校の教育活動の中で体力向上する機会が年々減ってきていることは確かで、以前は長い休み時間の間に体力を高めるような活動をしていた学校が非常に多かったが、そういった機会が年々失われていき、今では休み時間でも教室で過ごす子供も増え、昼休みに外で遊ぶ機会もなかなか取れないというのが実態になっていると推測される。

ただ、調査結果を踏まえると、「体育の授業は楽しい」などの各設問に対して肯定的に回答している子供の方が、体力合計点が高い傾向にあるため、今できることは、体育科の授業をより楽しく、そして魅力的に、目標に向かって活動できるような授業改善を行っていくことを対応策として考えている。中学校に繋がるような子供たちの意識、体力の向上を進めていきたい。

具体的には、来年度、体育実技研修を複数回実施することになっている。体力向上につい

て、課題を抱える教員や、指導力に不安な教員を集めて研修を実施することで、今行っている授業をまずは充実させることを考えている。

（神谷委員）体育の授業数は昔に比べて減っているということはあるか。

（教育センター所長）授業時間数は減っていない。

（神谷委員）学校外での体を動かす時間が減っている中で、従前と同じ時間数の体育の授業で体力調査の結果を伸ばすのは結構難しいと感じる。浜松市に限ったことではないため、何とも言えないが。

（教育センター所長）この調査結果の実情も各学校に報告して、分析をしていただくことになっている。各学校でどのように運動の機会を向上させていくかは今後の課題となってくる。各学校の傾向なども見据えながら指導をしていく。

（田中委員）「授業が楽しい」の理由として、タブレットを体育の授業にも取り入れていることがとても大きいのではないか。自分の動作を見たり、他の子の動作を撮ったりと、上手く活用しているように思う。振り返りがしやすい要因にもなって自分を評価しやすいところが、こうした調査結果に表れているのではないかと思う。その反面、理論とは別に、実際に身体を動かして身体を鍛えることも充実させていかなければならないのではないかと思う。

（教育センター所長）体育の授業では、理論を学ぶ時間と実際に身体を動かす時間のバランスが大事にされている。体力向上には、実際に運動する時間の確保が大切であるため、研修を通じてその点も伝えていきたい。

（教育長）学校の環境も変わりつつあるため、様々なツールをうまく活用しながら、限られた時間の中で成果が出るような形で、授業改善を進めていっていただきたい。

（黒柳委員）体力づくりでいうと、子供たちは身体を動かす機会が学校以外でほとんどないと感じている。他方、今健康ブームというような形で、スポーツジムが多くあり、大人の健康に対する意識が高まっていると思うため、子供のうちから家庭でも体を動かすということを継承していくことも同時に行って行っていただきたい。

（下鶴委員）体力づくりは保健分野とすごく関連性が高い。体育と保健のより一層の関係性を深めた授業を行うと効果的に思う。

加えて、「体育の授業が楽しい」という回答が多く、大変嬉しく思ったが、何を楽しいと思っているかに着目する必要があると思う。楽しさというのは運動のもつ特性とすごく合

うため、その特性と相まった楽しさが必要に思う。例えば汗をいっぱいかいたとき、できなかったことができるようになったとき、友達と何かに取り組むときなど、どんな楽しさを楽しんでいるのか、そこをしっかりと分析して、授業に還元していくことが必要なのではないかと思う。

もう一点、この結果を各学校で分析するとのことだったが、従前の学校では、子供たちにどのように体力をつけさせようかということで、独自の準備運動を作ったりして、体育の準備運動で行うなどしていた。学校毎の弱点を補えるような工夫もまた必要ではないかと思う。

エ こども向け無形民俗文化財紹介動画の公開について

※文化財課長から資料に基づき説明

（神谷委員）動画の長さが15分とあるが、これは1本の動画の長さが15分ということか。

（文化財課長）入門・紹介編で15分、発展・継承編で15分である。

（神谷委員）子供たちにとって15分は長くないか。集中力が続くのか心配だが、この点はどのようにお考えか。

（文化財課）動画作成にあたり教員の意見として、45分の授業のうち最大でも3分の1の時間、導入部分の15分が限界だろうということがあった。ただ一方で、その後に資料をつけているため、学習指導要領を用いながら、教員が児童の反応を見ながらダイジェストとして使っていただいても良い。また、簡単に振り返りができるため、授業外でもご家族と一緒に見ていただくという活用方法もあると思っている。必ず15分を一度に通して見るということではなく、授業で使いやすい形での活用を教員にお願いしていく。

（下鶴委員）小学校の社会科の教員の意見も参考にしたとあるが、作成前にどのような意見があったのか。

（文化財課長）当初は低学年向けに初級編、高学年向けに発展編のイメージであったが、伝統文化については小学校4年生で扱うと聞いた。実際使用する学習資料も見せていただきながら、授業内で使いやすい形をご意見いただいた結果、小学校4年生の前半後半で使えるような企画にした。

（下鶴委員）動画の登場人物の名前については、浜松に由来するものなどといった工夫はしたのか。

（文化財課長）浜松の特徴などは特に入れず、個性を持たせていない。